北海道新聞　30年2月9日（朝刊）

留学「変化に耐える能力を」

樽商大 佐野力奨励金 37人に授与

和田健夫学長（右）から目録を受け取る室谷奈瑠美さん

小樽商大で7日、同大OBの佐野力さんの寄付金による留学プログラムに参加する学生への奨励金授与式が行われた。式には2、3月に留学する学生37人が参加。和田健夫学長から、学生代表の室谷奈瑠美さん(21)らに目録が贈られた。

和田学長は式で「これからの社会は変化に耐えられる能力を磨くことが大事。いろんな事を身につけて帰ってきて」と学生に呼びかけた。同プログラムに参加すると学生は5万円の自己負担のみで3週～4週間の留学ができる。留学は春と夏の学生の長期休暇の年2回実施している。

奨励金は、ソフトウエア大手の日本オラクル元会長、佐野力さん個人の寄付金。2015年度に始まり、留学者数は3年間で141人。佐野さんからの寄付金額は次年度分も合わせ累計で約1億円となった。

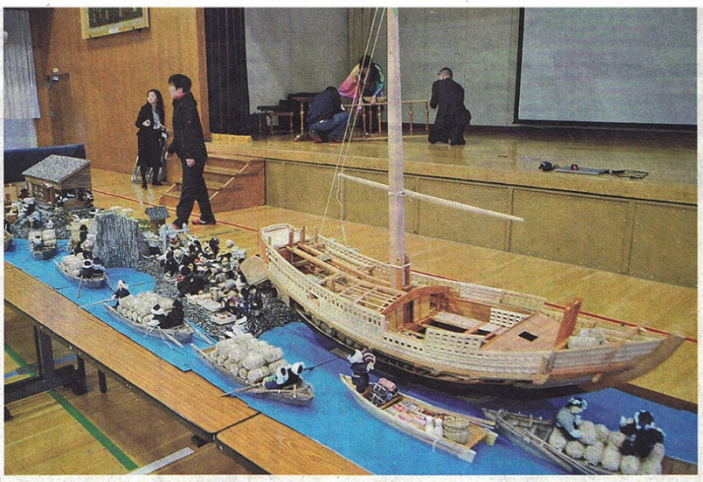
2月からオーストラリアに4週間留学する2年生の室谷さんは「初めての海外。異文化を体験し、変化に対応できる人間になりたい」と話していた。

（徳留弥生）

北海道新聞　30年2月8日　石狩版（朝刊）

北前船 ジオラマ通じ理解

市民団体が出前授業



㊤北前船の模型を中心にした横幅約4㍍のジオラマ。4月に厚田区で開業する道の駅でも展示される
㊦講師を務めた（左から）明楽みゆきさん、高野宏康さん、石黒隆一さん

【石狩】江戸期から明治期にかけて北海道と関西を日本海航路で結び、国内物流の大動脈だった「北前船」の歴史を学ぶ出前授業が5日、花川北中で行われた。1、2年生約160人が体育館で大型ジオラマを見学し、北海道の開拓を支えた北前船に思いをはせた。ジオラマは市民の手作りで、4月27日に厚田区で開業する「道の駅 石狩 あいろーど厚田」で一般公開される。（木村直人）

手作りの力作

花川北中生「すごい」

北前船の歴史を地域振興に生かす市民団体「北海道北前船プロジェクト」の主催。全国団体「現代版北前船プロジェクト」（札幌）の実行委代表でチェンバロ奏者の明楽みゆきさん(59)、小樽商科大の学術研究員高野宏康さん(43)、石狩市郷土研究会事務局長の石黒隆一さん(62)の3人が講師を務めた。北前船は2017年、日本遺産として文化庁に認定されている。

ジオラマは横幅約4㍍で、1892年（明治25年）ごろの厚田区古潭の漁場を再現。石黒さんが新潟、石川両県で取材して再現した北前船の木製模型（長さ約120㌢、幅約40㌢、高さ約110㌢）を中心に、浜益区の人形作家八田美津さん(75)が作った人形約80体が並ぶ。約1年半かけて制作中で大半が完成したため、教材として利用した。

同日はビデオカメラで撮った船の内部を大型画面に投映。石黒さんは「船底は水に強いアカマツ。実物と同じ5種類の木材を使いました」などと紹介。生徒に「完成品を見に、ぜひ道の駅に来て」と呼び掛けた。

高野さんは、北前船の船主は北陸出身者が多かったと説明し、「道民の先祖は北陸生まれが多い。北前船は北海道やみんなのルーツでもある」と指摘。道内からの積み荷は、ニシンやサケ、昆布などの海産物が中心だったと解説した。

2年生の中島唯花さん(14)は「細部まで作り込まれたジオラマがすごい。石狩にも北前船が寄港したことを初めて知り驚きました」と話した。